

ESCAP政府間会合開催 障害者施策の領域、目標を定めた 「びわこミレニアム」(略称)を採択

10月25日から28日までの4日間、「アジア太平洋障害者の10年」最終年ハイレベル政府間会合が開催されました。この会合では、「アジア太平洋障害者のための、インクルーシブで、バリアフリーかつ権利に基づく社会に向けた行動のためのびわこミレニアムフレームワーク」が採択されています。これは、今後10年間に、アジア太平洋地域の各国政府や関係者が、取り組む課題・目標などを示した地域行動計画で、今後の障害者施策の指針となります。

滋賀県立

聴覚障害者センターだより

第27号



発行日/平成14年12月20日
 発行所/草津市大路2丁目11-33
 TEL 077-561-6111
 FAX 077-565-6101
 E-mail: ATV16488@biglobe.ne.jp

「びわこミレニアム」が目指すのは、あらゆる面(経済面、物理面、心理面など)でバリアがなく障害者の権利が守られている全ての人のための社会です。このような社会の実現に向け、「びわこミレニアム」は、7つ優先的領域、21の目標、17の戦略を定めており、目標には期限が、戦略には具体的な対応策が示されました。そのため、各国に対しては、障害者団体と協力して5ヵ年の行動計画を策定すること、障害者の権利を保護する法律と政策を作り既存の法律を見直すこと、アジア地域間の相互関連を進めることなどを求めています。

当初、「びわこミレニアム」には、「手話」や「手話通訳」という用語が、本文に記載されていませんでした。WFD(世界ろう者連盟)代表団は、「アジア太平洋の多くの国で手話や触手話、点字等が標準化されていないこと。これらのコミュニケーション手段の開発と普及がない限り、情報通信技術の発展による恩恵はないこと。また、

手話や点字等の標準化や普及の遅れが、コミュニケーションという基本的人権を視覚障害者から奪っていること。」を訴えました。そして、この課題克服に向けた目標として、「政府が、手話や点字等の標準化や開発整理を行い、普及に努めること。政府が、手話通訳や点字翻訳者等の養成と派遣制度を確立し、彼らの雇用を推進すること。」を「びわこミレニアム」追加修正することを要求しました。このコミュニケーション手段の保障は基本的人権であるという考え方が認められ、WFD代表団の追加修正案は「びわこミレニアム」に盛り込まれました。

聴覚障害者のための 放送バリアフリーに向けて 国際放送シンポジウム開く

国連では障害者の権利条約が提案されており、障害者の運動も国際的に重要な段階を迎えています。こうした障害者団体の取り組みの中で、近年要求が強く、切実に望まれているのが、情報分野におけるバリアフリー化の問題です。日本では、聴覚障害者団体が、この課題をテーマとする「放送バリアフリーシンポジウム」を開催し、問題に取り組んできました。今回は、エスキャップ最終年記念フォーラムに呼応し、十月二十六日に大津市のピアザ淡海で、「国際放送バリアフリーシンポジウム」として開催されました。このシンポジウムでは、五カ国六名の放送関係者が自国の放送番組を紹介し、今

休館日の お知らせ

年末年始は12月28日
(土)から1月5日(日)まで
休館となります。

後の課題について話し合いました。近年、字幕挿入番組は増えてつづありますが。放送技術の向上で、字幕挿入にかかる費用が安くなったことが原因です。それに比べ手話挿入番組は、字幕挿入に比べ費用がかかるため、まだまだ少ないのが現状です。今後、放送のバリアフリー化が資金面に左右されないために、法の整備や、企業意識の改革等が望まれます。



障害者

ITサポーター(相談員)を配置

12月から毎週月、水、金曜日、相談事業を開始します。

障害のある人を対象に、パソコンやインターネットに関する質問や疑問に答えるITサポーター(相談員)を聴覚障害者センターの情報サロンに配置しました。パソコンやインターネットの使い方が

判らなくて、お困りの方は、気軽に相談にお越し下さい。毎週月、水、金曜日の午前9時30分から午後6時まで開設しています。休日と重なった場合は、前後の日に振り替えて週三回は必ず開設します。ITサポーターの名前は、大馬雅夫さんです。今までの職場で長くコンピュータの仕事をしてきたベテランです。どしどし相談にお越しください。相談は無料です。

また、二月頃には初心者向けのパソコン講習会も計画しています。一月頃に、実施要項等お知らせします。受講料は無料ですがテキスト等は受講者負担です。

IT講習会実施要綱

下記のとおり、聴覚障害者(ろう者・難聴者)を対象に、初心者向け短期パソコン講習会を開催いたします。

- ◆ワープロ(ワード)入門コース◆
 - ①ろう者対象コース(3時間×2回)
 - 一手話、OHP
 - 2月1日(出)、8日(出)
 - 午後1時30分～午後4時30分
 - ②難聴者対象コース(3時間×2回)
 - 一筆談、OHP
 - 2月15日(出)、22日(出)
 - 午後1時30分～午後4時30分

- ◆表計算(エクセル)入門コース◆
 - ③ろう者対象コース(3時間×2回)
 - 一手話、OHP
 - 3月1日(出)、8日(出)
 - 午後1時30分～午後4時30分
 - ④難聴者対象コース(3時間×2回)
 - 一筆談、OHP
 - 3月15日(出)、22日(出)
 - 午後1時30分～午後4時30分

【対象】 県内在住の、ろう者・難聴者(初心者)
各コース定員5名
【申込・問合せ先】 滋賀県立聴覚障害者センター(担当・大場)

夜も眠れないシステム管理者から転身して、当センターで、この十二月から障害者IT(情報通信技術)サポート事業を担当しています。

パソコンやインターネット接続料金などの低価格化に伴って、情報機器が身近なものになってきました。しかし、情報のバリア・フリーが叫ばれている現在、IT利用による社会参加への道案内を、障害者にもしなければなりません。その

ITサポーター紹介 大場雅夫



お手伝いをしたく思います。気軽に越しください。ありがとうございます。

この事業は国の緊急雇用対策事業として、滋賀県が実施する「障害者ITサポーターセンター事業」の一環です。聴覚障害者センターが受託し、一四年度から一六年度まで実施するものです。

ピアカウンセリングのご案内

びわこ障害者支援センターでは、湖南地域3市(草津市、守山市、栗東市)2町(野洲町、中主町)の委託により、身体障害者の相談支援事業を行っています。

滋賀県聴覚障害者福祉協会は、同センターから委託を受け、聴覚障害者に対する相談・支援事業を実施することになりました。第1、3火曜日、野洲町総合福祉センターに、ピアカウンセラーを派遣する予定です。(但し、平成15年2月から)

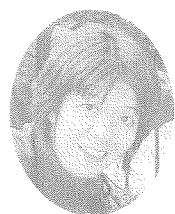
問合せ先
びわこ障害者支援センター
住所 草津市笠山8-3-113
TEL 077-566-4369
FAX 077-566-0308

聴覚障害者を対象に障害者当事者相談業務従事者研修13人が受講

聴覚障害者自身がカウンセラーとなり、実際に社会生活上必要とされる心構えを話すなどの個別的な援助・支援を行う「ピアカウンセリング」。これは、聴覚障害者自身の悩みを、同じ障害を持つカウンセラーが聞き一緒に考えるというもので、最近、新しくつくられたシステムです。相談員などの専門職による相談ではなく、同じ仲間としての支えあいの気持ちとヘリスに展開される相談活動といえます。

滋賀県では、障害者生活支援センター等のピアカウンセラーを対象に、十一月二六日、聴覚障害者センターを皮切りに、「平成一四年度障害者当事者相談業務従事者研修」が開催されました。今回の研修では、受講対象者の障害種目が「聴覚障害」と位置づけられており、聴覚障害者一三人からの申し込

ピアカウンセラー紹介 五十風恵子



神戸出身で守山市に越してきたのは七年前。以来子育てに追われながらも、自分の将来も考えなければと矢先、障害者ホームヘルパー二級資格取得研修が開催されることを知り、受講しました。現在は、手話ができるホームヘルパー、介護福祉士、ケアマネージャーの方達と立ち上げた「ふくらむ」の会に参加しています。そんな折に頂いた「ピアカウンセラー」の語。私にできるかと少々不安ですが、「ピア」とは、「仲間」という意味なので、同じ障害を持つもの同士だからこそ理解し、悩みを分かち合えるのではと考えています。まずは、皆さんと親しくさせて頂くことからです。気軽に声をかけてください。

みがありました。公開講座を含めて来年二月まで、一〇回開催されます。

初めての集

手話サークルを
考える集い
〜手話をみつめよう〜

草津市立まつくりセンターにおいて、十一月十七日(日)「手話サークルを考える集い」を実施しました。県内の手話サークルと大学の手話サークルを対象として、初めて合同で開催しました。

今回は、準備段階から、手話サークル運営や学習方法等の情報交換を通して、聴覚障害者に対する理解を深めることを目的とした内容を、滋賀県手話サークル連絡協議会(以下県守連)、龍谷大学の担当者、聴覚障害者センターで協議を重ねてきました。

当日は、四十名を超える参加者を迎えて、午前中は「手話サークルに求めるもの」と題して、聴覚障害者と健聴者が自分の体験を通して講演。午後からは、草津手話サークルつばさと龍谷大学からの事例報告について討議に入りました。司会役は、県守連と龍谷大学が担当し、参加者は二グループに別れて手話サークル活動や学習方法等について意見交換を行いました。最後に各グループの報告があり、一日を通して「手話サークルについて」考え、

手話サークルを考える集い



世代を越えた出会いや交流・情報交換ができた集いとなりました。

初めての講座

盲ろう者対象の
日曜教室

一足早く秋がかけさった十一月一日(金)に、障害者生活支援センター・ひまわりの方々の協力を得て、盲ろう者と家族の方々を対象とした事業を初めて企画し実施しました。

午前中は、地元聴覚障害者の方も含めて七名の方が、保健師の健康チェックを受けました。食事療法や医療機関の継続治療のご助言を受けた方もおられ、健康問題への意識が高まるきっかけとなりました。続いてヨシガの先生から、一人一人直接ご指導を受け、心地よい汗をかいて日頃の運動不足とストレス発散につながったようです。

その後、食事を済ませて入浴等、各自が自由にくつろぐの時間を持ちました。午後からは、今年度から開講した盲ろう通訳介助者養成講座の受講生の方々も加わり、自



紹介と近況報告・輪投げゲームと続きにぎやかな交流会となりました。自己紹介も、通訳介助者に頼らず、自分自身で盲ろう者の方



に自分の名前を触手話筆談等で伝え、盲ろう者の方は笑顔で応えられ、会話が一段と弾んだようでした。最後に、盲ろう者の方の手作り作品の「輪投げ」を全員参加で行い、一日を通して有意義な交流の時間を持つことができました。

センター最前線
センター名表示看板が立ちました

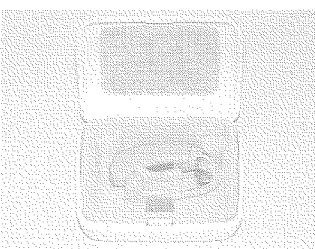
センターの前に、看板を設置しました。大きさは、高さ三メートル、横幅一メートルで、両脇の通りから覗き込んだとき見えるようになっています。少しでも目立つようになると、青地に白文字のデザインです。

当センターは細い路地に面しているにもかかわらず、看板がありませんでした。初めての来館者は道に迷うようです。看板の設置は、道を探ねることが難しい聴覚障害者に対し、視覚的な配慮が必要と考えてのことです。

高度難聴用補聴器が
試聴できます

聴覚障害者センターでは月に一度、「聞こえの相談」を実施しています。聞こえの検査後に、あなたの聞こえに関する悩みを伺い、聞こえに応じたアドバイスをします。

「この補聴器は安いので聞こえが良くなかった。高いのならばもっとよく聞こえたのに」との声をよく聞きますが、補聴器は高ければ良いわけではありません。靴や洋服をあつらえるように、自分にとって一番聞こえやすいように調節したものが良い補聴器です。つまり、補聴器は値段ではなく、お使いになる方の聞こえの状態や生活に応じた補聴器を利用するのが何よりも大切です。聴覚障害者センターでは今年から高度難聴用の補聴器の貸し出しが可能となりました。補聴器の試聴で「自分に合っていることを確認したうえで、購入されることをお勧めします。



高度難聴：聴力レベル90dB以上を言います。補聴器を使用してても内容の理解が困難で、読んだり話したり相手の口元を見て内容を知らなければならないことが多い方向性の補聴器です。

養成・派遣の現場から

近頃の要約筆記
養成事業と派遣
事業

十月三日～二十八日、大津市内では国連「アジア太平洋障害者の十年」最終年ハイレベル政府間会合が開催されました。期間中、要約筆記も政府間会合を盛り上げるために計画された共催事業や歓迎レセプション、さまざまなパーティーなどへの派遣を行いました。機材の準備に漏れがないよう細心の注意をほらい、おかげさまで、パソコン要約筆記 OHP 要約筆記も経験ある登録要約筆記者のチームワークと機転の利く対処により問題なく終えることができました。

近頃は要約筆記も講演やシンポジウムに設置されるようになり難聴者・中途失聴者も要約筆記を通じ、その内容を知らることができるようになってきたと思います。一方、難聴者・中途失聴者が個人的に利用する派遣の内容も、家族に関する相談など守秘義務や参加保障が重んじられる深刻な場への派遣が増えています。人つてに後ほど家族から聞くのではなく、その場において要約筆記で聞き質問をする。そのような必要不可欠な派遣に発展してきたことを感じます。

また地域での発展も湖西方面にみられます。昨年度より始まった湖西障害者生活支援センター主催による要約筆記者養成講座も2年目を迎え、今年の基礎課程講座の修了者により、その地

域にも、自主的に要約筆記の学習を続けていくという集団（要約筆記のサークルという実体）ができつつあることが、なにより嬉しいニュースだと思えます。

盲ろう者の外出とコミュニケーションを支援します

滋賀県では、今年度から本格的に聴覚と視覚に障害を持つ盲ろう者に対して、通訳・介助者を派遣しています。どこかに出かけたいと思っても、介助者がいない為に、あきらめたり、他人とのコミュニケーションが困難な為に、人の交流がないまま生活している盲ろう者がいると思われまます。そのような中で、通訳介助者を依頼して、病院に行ったり、医師の説明を聞くことができたり、仲間との交流を楽しむことができるようになった盲ろう者もいます。しかしながら、この制度を利用しているのは、まだごく一部の人で、これからもっとお知らせしていく必要があります。

平成14年度上半期ライブラリーベスト10

1位	北の国から	59本
2位	初級手話講座	25本
3位	オヤジい。	14本
4位	人間・失格 たとえはほくが死んだら	12本
5位	手話タイム・プラスワン	11本
5位	青の時代La periode blue	11本
5位	手話で話そう	11本
8位	テレビ手話教室	10本
8位	手話ふれあいフェスティバル	10本
8位	新・星の金貨 —Die sterntaler—	10本

新しいビデオが入りました

平成14年度字幕ビデオライブラリー共同事業第1回（前期）分のビデオが新しく146本入りました。主なタイトルは次の通りです。

- ドキュメント
 - ・「にんげんゆうゆう」シリーズろうの世界の豊かさを伝えたい
- ドラマ
 - ・君の手がささやいている—最終章—
 - ・新・星の金貨—Die Sterntaler—
 - ・HERO
 - ・明日があるさ スペシャル
 - ・PLATNIC SEX
- アニメ
 - ・名探偵コナンスペシャル
 - ・とつとこハム太郎
- バラエティ
 - ・学校へ行こう！
 - ・奇跡体験！アンビリバーボー
 - ・世界ウルルン滞在記

手話通訳者派遣から

毎年、秋頃は多くの講演会が開催され、団体からの派遣が多い時期といえます。特に今年度は、ESCAP（アジア・太平洋障害者の十年最終年ハイレベル政府間会合）が滋賀県で開催されたのが特徴でした。国際的な行事という日頃慣れない場で、登録手話通訳者のべ八〇名近くを派遣し、ご尽力頂いた結果無事終了することができました。

最近では、聴覚障害者の社会参加の機会が増し、国際的な会議から個人依頼の医療や子育て、労働関係などいのかやくらしに関わるものまで手話通訳者の役割は専門的で広範囲なものが求められるようになります。改めてその要請に応えられるように、手話通訳者の養成や研修、健康管理などを考えていく必要があります。

センターだより

みなさん、今年はどうな一年でしたか。

今年は、全通研夏の集会、手話ふれあいフェスティバル、ESCAPの行事がそれぞれ無事に終えてほっとしています。

振り返ってみますと、「これでよかったかな」と考えたら、知らなかったことを学べたし、さまざまな人に出会えて、大変な収穫だったと思っていますが、反面見えない問題や課題が見えたのではないかと思います。

この課題は残ったままで繰り返されるのではないかと不安に感じています。課題を消極的に捉えずに改めて、皆さんで話し合って整理することができれば、およその課題は解決に向かっていかなければならないと再認識しています。皆さん、ゆとりを持って話し合ってみませんか。

来年は、よいお年を迎えられますように。

(K. N)